

さけが大きくなるまで (11 時間)

ばん 名前

たんげんの かだい

文しょうに書いていないことについてしらべて書きたし、
もっと **くわしく** せつめいしよう。

やること

「さけが大きくなるまで」の足りないせつめいを
つけ足した **かんぜんばん** 作り

わかる・できる

・文しょうの 中の できごとの **じゅんじょ**がわかる。(2)ア

かんがえる・はんだんする・あらわす

・**じゅんじょ**に 気をつけて 文しょうを 読み、内ようの だいたいを
考える。(C(1)ア)
◎文しょうに 書いて いない ことを しらべ 大じな 言ばを えらん
で **じゅんじょ**よく せつめいする。(C(1)ウ)

学びのくふう

「さけが 大きく なるまで」を 何度も 読み、だいじな 言ばを えら
んで せつめい文を 書く ことで 自分が しらべた 内ようや 自分の
考えを わかりやすく 伝えようと している。

だい 3 ステージ (3 時間)

やること

- ・「さけが大きくなるまで (かんぜんばん)」の
文しょうを 書く。
- ・書いた 文しょうを 読み合い、せつめいし合
う。

【かくにん】

□「さけが大きくなるまで」の 足りなかった
じょうほうを つけ足し、バージョンアップ
させる ことが できたか。

ふりかえり

できたこと・うまくいかなかったこと

つぎにがんばりたいこと・気をつけること

たんげんの ふりかえり

できたこと・うまくいかなかったこと

つぎにがんばりたいこと・気をつけること

だい 1 ステージ (4 時間)

やること

- ・さけいがいの生き物のせいちょうが書かれた
せつめい文を読み、じょうほうのつけたしと
はどんなことかかくにんする。
- ・学びの プランを 立てる。
- ・「さけが大きくなるまで」を 読み、さけが 大
きく なるまでの ようすを まとめる。

【かくにん】

□足りない じょうほうの つけ足しとは どん
なことか わかったか。
□**じゅんじょ**に 気をつけて 読めたか。

ふりかえり

できたこと・うまくいかなかったこと

つぎにがんばりたいこと・気をつけること

やること

- ・文しょうに 足りない せつめいを さがす
- ・問いを作る

問い

- ・しらべる

ふりかえり

できたこと・うまくいかなかったこと

つぎにがんばりたいこと・気をつけること

これまでに学んだこと・できること

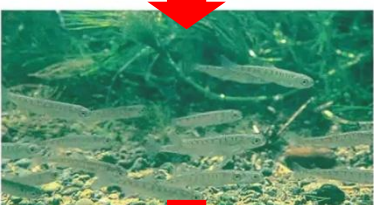
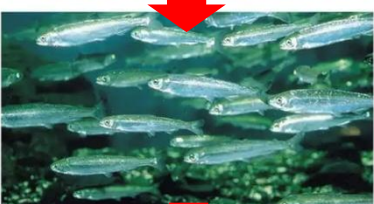
1 年生 (上)「だれが、たべたのでしょうか」(下)「はたらく じどう車」
→文しょうの 中の 大じな 言ばを えらんで、わかった ことを まとめる 学習
→文しょうに 書いて ある ことを もとに、自分の 考えの わけを はっきり させる 学習

さけが大きくなるまで

ばん 名前

かだい

「さけが大きくなるまで」を読み、さけが大きくなるまでのようすをまとめる。

しゃしん	時	場所	大きさや 様子
	・	・	・
	・	・	・
	・	・	・
	・	・	・
	・	・	・
	・	・	・

2年国語科学習指導案

授業者：片原 顕光
日 時：10月2日（金）5校時
対 象：2年1組児童18名
場 所：2年1組教室

1 授業について

単元名	さけが大きくなるまで	
目 標	知識及び技能	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。((2)ア)
	思考、判断、表現	「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(A(1)イ) 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(C(1)ア) 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(C(1)ウ)
	主体的に取り組む態度	積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題にそってさけが大きくなる様子を読み取ることができる。
研修との 関わり	ゴールを明確にしたラーニングマウンテン	ラーニング・マウンテンを使って学習過程を可視化し、発達段階を踏まえた足場かけをすることで、「低学年段階における自己調整学習はどのように成立し得るか」という本校の研究主題に対する具体的な手立てと効果を検証する。
	課題を見つけ、自己調整を図るための、振り返りの活用	学習のまとまり毎に振り返りを行うため、各ステージの最後に振り返りを行う。「できたこと・うまくいかなかったこと」「次がんばりたいこと・気をつけること」について振り返りを行わせることで、自己調整を計らせる。
	深い学びを実現するためのICTの適切な活用場面	調べ学習を行わせる際、学習内容に関連したサイトのWebポータルを児童と共有する。

2 単元計画

	学習活動	評価規準
1	○さけ以外の動物の成長が書かれた説明文を読んで、情報の付け足しとはどのようなことを確認する。 ○情報を付け足し、もとの文章より詳しい説明文を書くために必要な学びのプランを立てる。	主 積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題にそってさけが大きくなる様子を読み取ることができる。
2 ～ 4	○「さけが大きくなるまで」を読み、さけが成長していく様子を時・場所・大きさや様子を表す言葉に気をつけてマトリクスにまとめる。 ○全体で表の内容を確認する。 ○順序に気を付けて読めたか、足りない情報の付け足しとはどんなことか理解できたかについて振り返る。	知・技 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。((2)ア) 思・判・表 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(C(1)ア)

5 (本時)	○文章中にある大事な言葉（時・場所・大きさや様子に関連する言葉）を選び、全時までにまとめてきたマトリクスから、文章に足りない説明を探して問いを作る。 ○問いを書いたノートを持って歩き、交流し、完全版を作るためにはどのような問いを立てて調べるべきかについて考えさせる。 ○ラーニング・マウンテンをもとに、次時への見通しをもつ。 ○問いの答えを調べる方法を確認する。	思・判・表 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(C (1) ウ)
6 8	○問いの答えを学校図書館の本やインターネットを使って調べる。 ○詳しくする文書を書くにあたって必要な情報を集められたかについて振り返る。	知・技 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。((2) ア)
9 11	○調べたことを加えて、「さけが大きくなるまで」の足りない説明を付け足す文章を書く。 ○書いた文章を教材文の何ページ何行目に挿入するのが適当か考える。 ○書いた文章を読み合い、それぞれの説明文の良さを見つける。 ○単元全体の学びを振り返る。	思・判・表 「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(A (1) イ)

3 本時（5／11）

目標	前時までに整理したマトリクス（時・場所・大きさや様子）をもとに、教材文に書かれていない情報の空白に着目し、より詳しい「完全版」を作成するために追求したい「問い」を立てることができ る。 【読むこと C(1)ウ：文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと】
----	--

学習活動	・指導上の留意点と評価 ICT…活用のポイント ☆個別最適な学び・協働的な学び
予見（10分） 1. 前時までに整理したマトリクスシート（時・場所・大きさや様子）を確認し、単元のゴールを再確認する。 ・マトリクスを見直し、情報がたくさん書かれているマスと、あまり書かれていない（空欄や情報量が薄い）マスがあることに気づく。	・前時までに作成した「マトリクスシート」を手元に準備させ、時系列の並びと3観点（時・場所・大きさや様子）を視覚的に想起させる。
課題 文しょうに たりない せつめいを さがし、かんぜんばんを 作るための「問い」を立てよう。	
遂行（28分） 2. 教材文にない「情報の空白」を見つけ、問いの作り方を確認する。 ・マトリクスを参考に、分かっていることと分からないことを確認する。 ・問いの型（「～は、どのように～しているのだろうか」「～のほかに～はいるだろうか」など）を確認する。 3. 【個人追究】マトリクスをもとに、自分が調べたい「問い」をノートに書く。 ・マトリクスの空いているマスに着目し、疑問に思ったことをノートに記述する。 4. 【共有と整理】ノートに書いた問いを共有・グルーピングする。 ・ノートを持って歩きながら交流し、自分の問いを明確にさせていく。 ・必要に応じて、自分の問いをより問うべき問いになるように修正する（問いの変更も認める）。	・「さけのおいしい食べ方」などの単元ゴールから外れた拡散を防ぐため、あくまでマトリクス（時・場所・様子）の空白を埋める問いであることを共通理解させる。 ・教材文の記述が充実している部分と、記述が少ない部分を大まかにつかませ、どこを詳しくすると「完全版」になりそうか考えさせる。 ☆個別最適な学び（指導の個別化） ・机間指導により、問い作りに迷っている児童にはマトリクスの空欄を具体的に指示し、「川から海に出たあとの『夏』はどうか？」「海でたたかう相手はだれかな？」と足場をかける。 ☆協働的な学び ・単なるノートの見せ合いにならないよう、「友達と同じ、似ている、違う問いを見つける」「どうしてそのような問いを立てたのかについて、理由を尋ねる」という視点を与えて交流させる。 ・前時までに整理したマトリクス（時・場所・大き

5. 振り返り

- さや様子)をもとに、教材文に書かれていない情報
の空白に着目し、より詳しい「完全版」を作成
するために追求したい「問い」を立てることがで
きる。【評価基準(読むこと C(1)ウ)】

- ・自己調整学習の観点から、マウンテン上の現在地を確認させる。
- ・第2ステージの次時(6・7 時)に向け、学校図書館司書との連携による図書コーナーやスプレッドシートで作った関連 WEB のポータルサイトの存在を伝え、調べ学習への意欲付けを行う。また、夏休みに千歳サーモンパークに行ってきた児童はそこで得た資料の持ち込みも可とする旨を伝える。

4 板書計画

[illegible]